

大阪公立大学医学部附属病院 歯科臨床研修プログラム

歯科臨床研修手帳

研修医氏名 _____

研修期間： 20 年 月 日 ~ 20 年 月 日

【別添】到達目標及び研修内容と必要な症例数，指導体制，修了判定の評価基準

到達目標	研修内容	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準				
<p>1.基本的診察・検査・診断・診療計画</p> <p>一般目標： 患者中心の全人的歯科医療を提供する能力を身につけるために，基本的な診察法および検査法を 実践及び収集された医療情報を評価し，一口腔 単位の治療計画を作成する。</p> <p>行動目標：</p>	<p>① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で， 適切に医療面接を実施する。</p> <p>② 全身状態を考慮した上で，顎顔面及び口腔内 の基本的な診察を実施し，診察所見を解釈す る。</p> <p>③ 診察所見に応じた適切な検査を選択，実施し， 検査結果を解釈する。</p> <p>④ 病歴聴取，診察所見及び検査結果に基づいて 歯科疾患の診断を行う。</p> <p>⑤ 診断結果に基づき，患者の状況・状態を総合的 に考慮した上で，考え得る様々な一口腔単位の 診療計画を検討し，立案する。</p> <p>⑥ 必要な情報を整理した上で，わかりやすい言葉 で十分な説明を行い，患者及び家族の意思 決定を確認する。</p>	<p>①指導歯科医・上級歯 科医が研修歯科医に 患者を配当し，研修歯 科医は指導歯科医・上 級歯科医の指導の下， 治療を行う。 (患者配当型)</p> <p>②指導歯科医・上級歯 科医は，研修歯科医の 進捗状況を把握し， 不足している症例があ る場合は，指導歯科医 等の患者の症例を配当 する。 (症例配当型)</p> <p>上記①，②のいずれか 適切な方法により指導 を行う。</p>	<p>治療の流れを 連続して経験した 場合を1症例とし て数える。 (すべての流れを 経験することが 望ましい。)</p>	<p>目標達成基準とし て，見学50症例以 上，実践20症例以上 経験していること。</p>				
<p>2.基本的臨床技能等</p> <p>一般目標： 個々の患者に対して，基本的な治療を行う上で必要 な臨床能力を修得する。</p> <p>行動目標：</p>								
<p>① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導， 基本的な手技を実践する。</p>					<p>配当された患者・ 症例に対する診察</p> <p>指導歯科医・上級 医の診療への見 学，介助</p> <p>1)レジン修復 2)インレー修復 3)抜髄処理 4)感染根管処置 5)スケーリング・ ルートプレーニング 6)歯周外科治療の 補助 7)残痕抜歯 8)永久歯抜歯 9)埋伏歯抜歯</p>	<p>①指導歯科医・上級歯 科医が研修歯科医に患 者を配当し，研修歯 科医は指導歯科医・上 級歯科医の指導の下， 治療を行う。 (患者配当型)</p> <p>②指導歯科医・上級歯 科医は，研修歯科医の 進捗状況を把握し， 不足している症例があ る場合は，指導歯科医 等の患者の症例を配当 する。 (症例配当型)</p> <p>上記①，②のいずれか 適切な方法により指導 を行う。</p>	<p>治療の流れを 連続して経験した 場合を1症例とし て数える。(すべ ての流れを経験 することが望まし い。)</p>	<p>目標達成基準として， 下記の経験しているこ と。 見学 50症例 実践 50症例 ①～⑥(※②はa～f) について，各1症例以 上</p>
<p>② 一般的な歯科疾患に対応するために必要と なる基本的な治療及び管理を実践する。 a.歯の硬組織疾患 b.歯髄疾患 c.歯周病 d.口腔外科疾患 e.歯質と歯の欠損 f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下</p>								
<p>③ 基本的な応急処置を実践する。</p>								
<p>④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し，全身 状態を評価する。</p>								
<p>⑤ 診療に関する記録や文書(診察録，処方せん， 歯科技工指示書等)を 作成する。</p>								
<p>⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策につい て理解し，実践する。</p>								

【別添】到達目標及び研修内容と必要な症例数，指導体制，修了判定の評価基準

到達目標	研修内容	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準								
3.患者管理 一般目標： 歯科医師としての責任を果たすために必要な医療管理に関する能力を修得する 行動目標：	① 歯科治療上問題となる全身的な疾患，服用薬剤等について説明する。 ② 患者の医療情報等について，必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。 ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し，歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。 ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。 ⑤ 入院患者に対し，患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。（選択）	①指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し，研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下，治療を行う。（患者配当型） ②指導歯科医・上級歯科医は，研修歯科医の進捗状況を把握し，不足している症例がある場合は，指導歯科医等の患者の症例を配当する。（症例配当型） 上記①，②のいずれか適切な方法により指導を行う。	レポートの提出ごとに1症例とする。	目標達成基準として，20症例以上のレポートを提出していること。 ①～⑤ 各1症例以上								
4.患者の状態に応じた歯科医療の提供 一般目標： 個々の患者の状態に応じて，必要な歯科医療を提供する能力を修得する。 行動目標：					① 妊娠期，乳幼児期，学齢期，成人期，高齢期の患者に対し，各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理，口腔機能管理について理解し，実践する。 ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。 ③ 障害を有する患者への対応の実践する。（選択）	①指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し，研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下，治療を行う。（患者配当型） ②指導歯科医・上級歯科医は，研修歯科医の進捗状況を把握し，不足している症例がある場合は，指導歯科医等の患者の症例を配当する。（症例配当型） 上記①，②のいずれか適切な方法により指導を行う。	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。（すべての流れを経験することが望ましい。）	目標達成基準として，下記の経験していること。 3症例 ①～③各1症例以上				
5.歯科専門職の連携 一般目標： 歯科診療を安全に提供するため，各歯科専門職の役割を理解し連携を図る能力を修得する。 行動目標：									① 歯科衛生士の役割を理解し，予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。 ② 歯科技工士の役割を理解し，適切に歯科技工指示書を作成するとともに，必要に応じて連携を図る。 ③ 多職種によるチーム医療について，その目的，各職種の役割を理解した上で，歯科専門職の役割を理解し，説明する。	①指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し，研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下，治療を行う。（患者配当型） ②指導歯科医・上級歯科医は，研修歯科医の進捗状況を把握し，不足している症例がある場合は，指導歯科医等の患者の症例を配当する。（症例配当型） 上記①，②のいずれか適切な方法により指導を行う。	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。（すべての流れを経験することが望ましい。）	目標達成基準として，見学50症例以上，実践20症例以上を経験していること。

【別添】到達目標及び研修内容と必要な症例数、指導体制、修了判定の評価基準

到達目標	研修内容	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
<p>6.多職種連携、地域医療</p> <p>一般目標： 多職種との連携を通して歯科医療に必要とされる基本的な能力を身につける。</p> <p>行動目標：</p>	<p>勉強会への参加， 文献参照</p> <p>① 地域包括ケアシステムについて理解し，説明する。</p> <p>② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。</p> <p>③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において，その目的及び各専門職の役割を理解した上で，多職種によるチーム医療に参加し，基本的な口腔機能管理を経験する。（選択）</p> <p>④ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例：摂食嚥下リハビリテーションチーム，口腔ケアチーム等）について，その目的及び各専門職の役割を理解した上で，チーム医療に参加し，関係者と連携する。（選択）</p> <p>⑤ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し，参加する。（選択）</p>	<p>①指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し，研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下，治療を行う。（患者配当型）</p> <p>②指導歯科医・上級歯科医は，研修歯科医の進捗状況を把握し，不足している症例がある場合は，指導歯科医等の患者の症例を配当する。（症例配当型）</p> <p>上記①，②のいずれか適切な方法により指導を行う。</p>	<p>該当症例を経験した場合，1症例として数える。</p>	<p>目標達成基準として，2症例以上経験していることが望ましい。</p>
①				
②				
③				
④				
⑤				
<p>7.地域保健</p> <p>一般目標： 医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ，各種医療制度・システムを理解し，地域社会に貢献するために必要とされる基本的な知識を身につける。</p> <p>行動目標：</p>	<p>勉強会への参加， 文献参照</p>	<p>①指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し，研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下，治療を行う。（患者配当型）</p> <p>②指導歯科医・上級歯科医は，研修歯科医の進捗状況を把握し，不足している症例がある場合は，指導歯科医等の患者の症例を配当する。（症例配当型）</p> <p>上記①，②のいずれか適切な方法により指導を行う。</p>	<p>該当症例を経験した場合，1症例として数える。</p>	<p>目標達成基準として，2症例以上経験していることが望ましい。</p>
①				
②				
<p>8.歯科医療提供に関連する制度の理解</p> <p>一般目標： 医療に関する法規及び感染する制度の目的と仕組みへの理解を身につける</p> <p>行動目標：</p>	<p>勉強会への参加， 文献参照</p> <p>① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し，説明する。</p> <p>② 医療保険制度を理解し，適切な保険診療を実践する。</p> <p>③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し，説明する。</p>	<p>①指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し，研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下，治療を行う。（患者配当型）</p> <p>②指導歯科医・上級歯科医は，研修歯科医の進捗状況を把握し，不足している症例がある場合は，指導歯科医等の患者の症例を配当する。（症例配当型）</p> <p>上記①，②のいずれか適切な方法により指導を行う。</p>	<p>該当症例を経験した場合，1症例として数える。</p>	<p>目標達成基準として，3症例以上経験していることが望ましい。</p>
①				
②				
③				

【別添】到達目標及び研修内容と必要な症例数, 指導体制, 修了判定の評価基準

到達目標		研修内容	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
9.医科研修プログラム			各研修歯科医を担当する指導医師・上級医を決め, レポート作成の際にサポート等を行う.	レポートの提出ごとに1症例とする.	レポートは指導医師が評価を行う. 評価がC:標準以上(A:大変良い, B:良い, C:標準)のレポートを20症例以上提出すること.
一般目標:					
医科研修プログラムの中での多職種との連携を通して医学部附属病院における歯科医療に必要とされる基本的な能力を身につける.					
行動目標:					
①	医科研修プログラムを通して全身疾患を有する患者に対する基本的な診療能力を修得する.	各診療科における症例検討への参加.			
②	医科研修プログラムで多職種との連携を図り, 全身疾患を有する患者に対する基本的な診療能力を修得する.	見学, 担当患者の症例レポートの作製, グループ討論への参加.			

◆研修手帳～記入例～

(1) 記入例①

- 1.基本的診察・検査・診断・診療計画
- 5.歯科専門職の連携
- 6.多職種連携、地域医療
- 7.地域保健

20 . . .	自由記載欄:
(印)	

経験した日付を記入してください。

個人情報に留意してください。
指導医が症例を把握できるように記載してください。

指導医の承認印

(2) 記入例②

- 2.基本的臨床技能等
- 3.患者管理
- 4.患者の状態に応じた歯科医療の提供
- 8.歯科医療提供に関連する制度の理解

20 . . .	自由記載欄:
(印)	

事務記載欄：記載しないでください。

個人情報に留意してください。
指導医が症例を把握できるように記載してください。

経験した日付を記入してください。

指導医の承認印

行動目標の番号を記載してください。

例) 2. 基本的臨床技能等

②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。

a. 歯の硬組織疾患 ⇒ ②-a

(3) 研修内容項目の達成について

研修内容項目ごとの最後にあります。

研修内容項目を達成したら、プログラム責任者の署名または記名押印をもって、承認を受けてください。

プログラム責任者の承認を卒後臨床研修センターが確認した段階で、研修内容項目達成とします。

プログラム責任者 : _____ (印)

(4) 3.患者管理:レポートの取扱いについて

- ・ レポートは症例ごとに、記載欄の番号を付番して綴じること。
- ・ 個人情報の取扱いに留意すること。